

第20号(2017年度 夏休み特集)

山城地域 聴覚障害児 デイサービス新聞

発行日 2017年 (H29年) 11月1日
発行者 聴覚障害児デイサービス事業実行委員会
〒610-0121 城陽市寺田林ノ口11番64
TEL 0774-30-9000
FAX 0774-55-7708

2017年夏の取組み

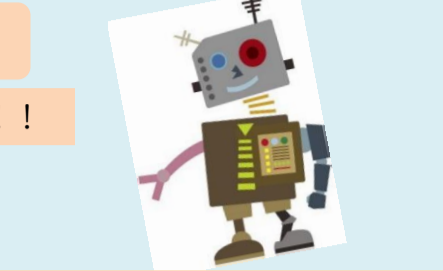
城陽の京都府聴覚障害センターを
拠点にしてから3年目になりました。

科学実験

空気砲の形がいっぱい!!



万華鏡を自分たちで作ったよ!



親子でBBQ



流しそうめん



自分たちでそうめんの準備をしたよ!



「にじ」「さくら」合同企画



他地域のおともだちができました♪

風船バレーでおおもりあがり!

みんなでパジャリ★



ニュースポーツ

どんなスポーツをするのかな??



身体を動かした後も、ちゃんと宿題♪



京都府警察見学



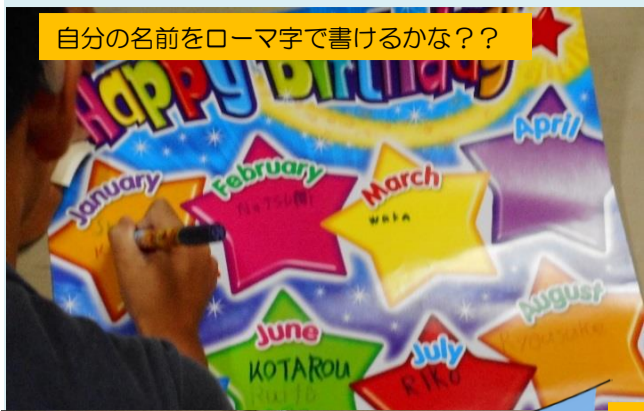
普段触れない手錠など
いっぱい触れたね♪



みんなで信号を表したよ!



自分の名前をローマ字で書けるかな??



「にじ」合同企画

英語の勉強をしたよ!



フール・屋台ごっこ準備

児童デイのリストバンド。おそろいだね!



みんなで屋台ごっこの看板作り♪

お弁当 最高!



編集後記

今夏の児童デイは、新しい高校生や大学生のボランティアがたくさん参加してくれました。子ども達にとって、一緒に体を使って遊べる若いお兄さん、お姉さんの存在は大切です。しかし、初めて聴覚障害のある子どもと出会い、どのように接したら良いのか、どんなふうに話しかけたら良いのか、とまどうボランティアさんもいたと思います。

毎年、聴覚障害児デイサービスのボランティアに来ていただく方には、ボランティア講座として「聴覚言語障害者の暮らしを考える山城研修会」に参加いただいて事前の学習の機会を設けています。山城地域で、聞こえない子どもはどのような困りごとを抱えているのか、児童デイはどんな役割を持つのかなどを学んでもらうためです。基本は、子ども達と一緒に楽しく過ごしてもらうことが一番です。その中で少し、コミュニケーションの取り方に注意してもらいたいです。聞こえない子どもも聞こえる子どももわかるような声掛けの仕方、つまりは視覚的に理解できるようにゼスチャーや指差しなどを駆使してコミュニケーションをとって欲しいと思います。スタッフの中には聞こえない大人もいます。手話ができれば言うことありませんが、手話さえできれば良いというわけでもありません。通じ合うためにどうすれば良いかを考え工夫する力、そういう力を発揮できるボランティアを求めています。初めからそのような力を持ち合わせていなくても、児童デイに参加しながら育んで頂ければ良いと思います。

今年はこのことがありました。小学校中学年のA君は今年、初めて一人で電車に乗って児童デイに参加しました。今までは中学生のお姉ちゃんと一緒にだったのですが、一人というのは彼にとって大冒険だったことでしょう。デイサービスに来るときは何事もなかったのですが、帰りに普通電車と快速電車を乗り間違えて、なかなか自分の降りたい駅に到着できませんでした。駅にお迎えに行ったお母さんから、降りてこないかと連絡もらった時には、私たちも本当に心配しました。でも、しばらくして無事に最寄駅に到着。この時のA君の気持ちを思うと、こちらまで胸がキュッとします。A君にとっては辛い思い出も、この経験がきっとこれからの自信につながるのだと思います。大きくなって一緒に「こんなことがあったね」と笑いながら話せる日が来るのを楽しみにしています。このような子ども達の成長をそばで見られることを、幸せに感じます。

最後になりましたが、この活動は、皆様のご協力、ご支援で成り立っています。この夏もたくさんの思い出ができました。皆様のご協力を心より感謝申し上げます。そして、これからもどうぞよろしくお願い致します。

(実行委員長)



次回の屋台ごっこが楽しみ~!!

みんなで一緒に作ったからおいしいね!

屋台ごっこ



焼きそば・クレープ・ポテトを作ったよ!

